

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	長期的展望に立って在宅の障がい者や施設利用希望者の支援のために地域貢献事業を着々と展開している
	内容	創業以来の開拓者精神を大事に、時代に即した障がい者のための事業を着々と展開している。地域の在宅障がい者を始め、施設利用希望者のニーズに応じて地域事業を進めており、地域の懸案であった指定特定相談支援事業を開始するとともに、グループホームの運営強化、グループホームの創設、さらには、通所事業のグループホームへの転換など長期的展望に基づく時代の流れを睨んだ障がい者支援の事業を推進している。
2	タイトル	加齢に伴う基本的日常生活動作の低下の中で職員は工夫をしながら地道な支援に力を尽くしている
	内容	利用者は、加齢に伴う基本的日常生活動作の低下があり、可能な限り、自立して普通の生活が送れるように個別支援に努めている。日課では個々の利用者の特性に合わせた創作活動に取り組み社会参加の一環として、地域の行事、町の文化祭への作品の出展やコーラスグループが出演するなどの社会活動を行ったり、日々の生活では、買い物支援や外出を通じて社会の空気や美術に触れる機会を作るなどの工夫をしている。また、リハビリ科医の定めた個別プログラムに取り組んで、機能の維持向上に努めるなど職員は地道な支援に力を尽くしている。
3	タイトル	利用者、職員にとって安心安全な生活環境を確保するとともに、職員にとって働きやすい職場環境を維持するための取り組みに力を入れている
	内容	感染症の予防を始め、利用者、職員の健康の管理には特段の注意を払っている。施設入口には消毒機器を備え、車いすや杖の消毒の介助、手洗の介助や声掛けの支援や紙コップを準備しての嗽の徹底、浴場では湯をかけ流しにするなどキメ細かな衛生面での対策を講じている。また、働きやすい安全な職場とするために、職員の心身の健康管理面にも意を用い、衛生管理者を選任し、衛生管理委員会を中心に職場環境の整備に努め、産業医を委嘱して相談体制を整え、あるいは、夜勤者の健診を徹底するなど安全で安心な職場環境の構築に努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	小グループによる研修等を通じて互の切磋琢磨による技量向上努力が期待される
	内容	基本計画の重要課題の一つが人材確保と育成であり、事業の展開に応じて、職員の増員、勤務体制の改善を図っている。そのため、新人職員マニュアルを整備したり、育成担当職員を配置するなど支援技量の標準化、向上に力を入れているが、技量習熟には時間を要する。少グループでの面談指導、意思疎通や勉強会、事例研究会、社会人としての意識付けなど内部研修など小人数に絞るなど小グループによる研修を通じて互の切磋琢磨による技量向上努力が期待される。さらには、一対一による指導員による実践的教育が期待される。
2	タイトル	サービス向上検討会は緒についたところでもあり、会を重ねることで着実な成果につながることに期待したい
	内容	職員は多様な勤務形態で活動しているため、一堂に会する機会はなく、職員間の情報共有について課題としている現状がある。施設では、グループウェアを活用した記録類の共有、利用者個別の支援マニュアルによるサービスの質の標準化などに取り組むとともに、毎月サービス向上検討会を同一テーマで3回開催し、職員が参加しやすい状態を作り出す工夫をすることで、職員間の情報の共有、周知の徹底に努めている。サービス向上検討会は緒についたところでもあり、会を重ねることで着実な成果につながることに期待したい。
3	タイトル	現状の災害対策を随時見直し施設事業運営の継続復旧計画の構築が大切と思われる
	内容	利用者、職員の安全の確保のために、ヒヤリハット報告の分析対応や避難訓練などリスクマネジメントに力を入れている。年々、安全面での社会環境の変化、自然条件の変化による多様な事故災害の発生など懸念される事態が増えつつある。火災は勿論、大規模地震の発生、豪雪豪雨などの自然災害、あるいは、ウイルスによる感染被害などが現実化する怖れも否定できない。現状の災害対策を随時見直し、シミュレーションを行い、食料、水、電源の確保、外出中の身の安全など施設事業運営の継続復旧計画の構築が大切と思われる。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	就労を目指した作業体験場として木工作業を中心に利用者特性に合わせた数々の新製品、加工方法の工夫で実績を積み重ねている
	内容	作業の中心となっている伝統ある木工製品では、地場企業や官公庁など多くの取引先からの受注があり、品質の良さに加えて、見積など素早い対応と納期の厳守に努めた結果、収益の向上、工賃のアップが図られている。近隣の特別支援学校の学校関係者、生徒、保護者からも関心を寄せられ、施設見学や体験利用の希望者も多い。加えて、次世代再生可能エネルギーと言われている「おが屑」を固めて作る燃料の生産では、製造機を購入し、木材加工会社の一角を借りて流通コストを削減するなど工夫を凝らして成果を挙げている。
2	タイトル	情緒面で不安定な利用者が増えており経営層が積極的に個別面談を行うほか、心理士や看護師による相談支援をキメ細かく実施している
	内容	情緒面で不安定な状態の利用者が増えており、オンブズパーソンによる相談、心理士や看護師による相談支援をキメ細かく行うほか、経営層が率先して現場を回り、声かけや個別面談を積極的に行っている。また、利用者自身の自立と課題解決力の伸長を促すため、職場会議で日々の問題点などを採り上げて議論したり、アドバイス、情報提供に努めている。一方、利用者の権利擁護に力を入れており、サービス向上委員会で職員全員を対象に研修を行い、年4回セルフチェック表により、自身で振り返りを実施しその定着化を目指している。
3	タイトル	利用者、職員にとって安心安全な生活環境を確保するとともに、職員にとって働きやすい職場環境を維持するための取り組みに力を入れている
	内容	感染症の予防を始め、利用者、職員の健康の管理には特段の注意を払っている。施設入口には消毒機器を備え、外出から戻った方の車いすや杖の消毒、手洗いの介助や声掛け、紙コップを準備しての嗽の徹底、空気清浄機を設けるなどキメ細かな衛生面での対策を講じている。また、働きやすい安全な職場とするために、職員の心身の健康管理面にも意を用い、衛生管理者を選任し、衛生管理委員会を中心に職場環境の整備に努め、産業医を委嘱して相談体制を整え、あるいは、夜勤者の健診を徹底するなど安全で安心な職場環境の構築に努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	小グループによる研修等を通じて互の切磋琢磨による技量向上努力が期待される
	内容	基本計画の重要課題の一つが人材確保と育成であり、事業の展開に応じて、職員の増員、勤務体制の改善を図っている。そのため、新人職員マニュアルを整備したり、育成担当職員を配置するなど支援技量の標準化、向上に力を入れているが、技量習熟には時間を要する。少グループでの面談指導、意思疎通や勉強会、事例研究会、社会人としての意識の発揚など小グループの内部研修を通じて互の切磋琢磨による技量向上努力が期待される。さらには、一対一による指導員による実践的教育が期待される。
2	タイトル	グループホームの開設、通所生活介護事業の立ち上げなど、地域支援の更なる充実に期待したい
	内容	就労継続支援B型の事業所ではあるが、希望してくる利用者については常時医療的ケアが必要な人を除き、断らないということを大切に支援を行っている。そのため、就労継続支援B型の支援より生活介護事業の支援の方が本人にとって良いのではないかとと思われる利用者が増えている現状がある。各種課題はあるが、事業所の理念でもある「社会の期待に応える」の実現に向け、グループホームの開設を始め、通所生活介護事業の立ち上げなど、地域支援の充実に図られることに期待したい。
3	タイトル	現状の災害対策を随時見直し施設事業運営の継続復旧計画の構築が大切と思われる
	内容	利用者、職員の安全の確保のために、ヒヤリハット報告の分析対応や避難訓練などリスクマネジメントに力を入れている。年々、安全面での社会環境の変化、自然条件の変化による多様な事故災害の発生など懸念される事態が増えつつある。火災は勿論、大規模地震の発生、富士山の噴火、豪雪豪雨などの自然災害、あるいは、ウイルスによる感染被害などが現実化する恐れも否定できない。現状の災害対策を随時見直し、シミュレーションを行い、食料、水、電源の確保、通所送迎中の身の安全など施設事業運営の継続復旧計画の構築が大切と思われる。

「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	日の出舎(障害者支援施設)	受審(実施)年度 (※)	平成26年度	施設番号	34 - 0008
-----	---------------	-----------------	--------	------	-----------

※第三者評価または利用者調査実施の年度

項目	評価結果に基づく現状分析 (平成26年度)	改善計画 (平成26年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成 27年4月30日時点)
職員の技 量向上に ついて	事業の展開に応じて、職員の増員、勤務体制の改善を図り、新人職員マニュアルを整備し、育成担当職員の配置も行っているが、技量習熟には時間を要する。小グループによる研修を通じて互いの切磋琢磨による技量向上努力が期待される。	仕事基準書を基礎として人事考課制度の運用をしているが、3か年計画・事業計画に基づき、以下のようなかたちで、職員技能の向上・改善を計画的にすすめる。 (1) マニュアル業務の標準化を継続して進める。 (2) 育成担当職員を中心として1対1による実践的教育の継続。 (3) 分野毎に役割分担を決め、小グループの係等がそれぞれ検討計画立案し実施する。 (4) 毎月3回のサービス向上検討会により日常的な内部研修を継続する。	① 実施済み 2 実施予定(平成 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 左記改善計画のすべてを継続実施し、さまざまな勤務形態の職員に研修や情報共有や意見交換の機会を設けるようにしている。
サービス向 上検討会 について	職員の情報共有については多様な勤務形態であるため課題であるが、グループウェアを利用したり、個別の支援マニュアルによるサービスの標準化に取り組んでいる。毎月3回のサービス向上検討会は同一テーマで行うことで常勤非常勤ともになるべく全員が参加できるようにしているが、回を重ねることで着実な成果が求められる。	常勤・非常勤職員ともに、サービス向上検討会に参加できるようにし、その中で利用者個別支援計画や利用者支援ガイドラインを共有し内容をどの職員にとっても身近にするとともに、介護・支援技術講習も実施する。共通の認識の下で組織的に利用者支援を行い、職員資質の向上を図る。	① 実施済み 2 実施予定(平成 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 左記のかたちで、様々な勤務形態の職員が、学びや情報共有の時間を多く持つことができおり、組織的な支援の展開につながっている。
災害対策 について	年々社会環境の変化や自然条件の変化などで多様な事故災害の発生など懸念される事態が増加しつつある。現状の災害対策を随時見直し、シュミレーションを行い施設事業運営の継続復旧計画の構築が大切だと思われる。	BCPの概念をもって規定しているわけではないものの、すでに平成17年2月10日から日の出町社会福祉協議会を含む「ひので福祉ネットワーク災害時相互避難協力協定」を締結している。また、地域自治会と地域内施設との相互災害応援協定を結んでいる。 この協定は、火災、震災、土砂崩れ等の被害に対し、ネットワークに参加する日の出町の福祉施設が相互に協力して、安定した避難生活を行えるための規約である。 さらに事業所内での対応のあり方を体系化するため、就労日の出舎では、緊急時対応マニュアルでウィルス対策を詳説しているのので、これをもとに地震等の他の災害にも対応する事業継続計画(BCP)策定の検討を運営会議で始めている。	1 実施済み ② 実施予定(平成26年9月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 運営会議において、「ひので福祉ネットワーク災害時相互避難協力協定」と連関し体系化した事業継続計画の策定をする。

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できま

「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	就労日の出舎 (就労継続支援B型)	受審(実施)年度 (※)	平成26年度	施設番号	35 - 00034
※第三者評価または利用者調査実施の年度					
項目	評価結果に基づく現状分析 (平成26年度)	改善計画 (平成26年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成 27年4月30日時点)		
職員の技 量向上に ついて	事業の展開に応じて、職員の増員、勤務体制の改善を図り、新人職員マニュアルを整備し、育成担当職員の配置も行っているが、技量習熟には時間を要する。小グループによる研修を通じて互いの切磋琢磨による技量向上努力が期待される。	仕事基準書を基礎として人事考課制度の運用をしているが、3か年計画・事業計画に基づき、以下のようなかたちで、職員技能の向上・改善を計画的にすすめる。 (1) マニュアル業務の標準化を継続して進める。 (2) 育成担当職員を中心として1対1による実践的教育の継続。 (3) 分野毎に役割分担を決め、小グループの係等がそれぞれ検討計画立案し実施する。 (4) 毎月3回のサービス向上検討会により日常的な内部研修を継続する。	① 実施済み 2 実施予定(平成 年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 左記改善計画のすべてを継続実施し、さまざまな勤務形態の職員に研修や情報共有や意見交換の機会を設けるようにしている。		
地域支援 について	就労継続支援B型の支援よりも生活介護がよいと思われる利用者が増えている現状がある。「社会の期待に応える」の実現に向け、グループホームの開設を始め、通所生活介護事業の立ち上げ等、地域支援の充実が図られることを期待したい。	3か年計画・事業計画に基づき、以下のようなかたちで、地域福祉への貢献に努める。 (1) 共同生活援助(介護サービス包括型)グループホーム「のぞみ」を平成27年4月より開設。地元の方を優先しながら利用希望を募っていく。 (2) 現状の就労継続支援B型には、通所生活介護事業の利用を見据えて利用されている方もおり、平成27年度中には通所生活介護事業の開設に向けて準備を進める。 (3) 相談 日の出舎と連携し、地域の学校等と連携し、ニーズに対応する。 (4) 継続して地域自立支援協議会への積極参加により、障害福祉計画や社会資源の開発の検討や協力を行う。	1 実施済み ② 実施予定(平成27年中) 具体的には以下のとおりです。 左記改善計画の(2)を除き、すべてを実施している。(2)は平成27年度計画だが、すでに、東京都所轄担当の方々、設計士等と計画検討をしている。		
災害対策 について	年々社会環境の変化や自然条件の変化などで多種の事故災害の発生など懸念される事態が増加しつつある。現状の災害対策を随時見直し、シュミレーションを行い施設事業運営の継続復旧計画の構築が大切だと思う。	BCPの概念をもって規定しているわけではないものの、すでに平成17年2月10日から日の出町社会福祉協議会も含む「ひので福祉ネットワーク災害時相互避難協力協定」を締結している。 この協定は、火災、震災、土砂崩れ等の被害に対し、ネットワークに参加する日の出町の福祉施設が相互に協力して、安定した避難生活を行えるための規約である。 さらに事業所内での対応のあり方を体系化するため、就労日の出舎では、緊急時対応マニュアルでウィルス対策を詳説しているの、これをもとに地震等の他の災害にも対応する事業継続計画(BCP)策定の検討を運営会議で始めている。	1 実施済み ② 実施予定(平成27年9月ごろ) 具体的には以下のとおりです。 運営会議において、「ひので福祉ネットワーク災害時相互避難協力協定」と連携し体系化した事業継続計画の策定をする。		

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できま